

令和7年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価（3月31日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○他者と協働し、生徒が「わかった・できた・つながった」を実感できる授業のあり方及びその評価方法について検討・共有する。	○他者の考えを知り、自分の思考を深めるとともに、課題の解決方法について考えることができる力を育む。	○ICTの効果的な活用やグループワーク等の活動を取り入れた授業について共有・実践する。	○生徒による授業評価における「授業中に得た知識をもとに、自分の考えや解決方法について考えることができている」の回答が、すべての教科で80%以上「あてはまる」になったか。	○該当の質問に対してすべての教科の回答で80%以上の生徒が、かなり・ほぼあてはまると回答している。また、全体では91%を超えている。	○「わかった・できた・つながった」に関する質問については、全体で91%の生徒が実感できていると回答している。他者との意見共有やICTの活用によりよい授業の実践を図る。	○生徒の授業評価の結果から、目標に対する達成度が読み取れた。また、ICTを活用しながら生徒の実態に合った授業が実践されていた。	○生徒のニーズに合った授業実践に努めることができた。今後も授業でICTを効果的に活用できるよう教員間で情報共有や研修を実施する。	○来年度も「わかった・できた・つながった」を実感できる生徒の主体的な学びが各教科で実践できるよう、授業研究を進めていく。
2	生徒指導・支援	①生徒に「かかわる・寄り添う・見守る」教育支援体制を推進するとともに、生徒が自らの課題に気づき、その課題を解決しようとする姿勢を育てる。 ②生徒の規範意識を定着させる指導のあり方を検討し、生徒が自身を律して社会で生きていく力を育む。 ③学校行事や部活動等をとおして、他者と協働して豊かな人間関係を構築する力を育む。	①相談から支援につながるプロセスを明確化し、教育相談体制のさらなる充実を図る。 ②自身の行動を客観視し、他人を思いやることのできる規範意識を育てる。また日常的なマナー指導の要である服装・身だしなみ指導の計画的実施を図る。 ③部活動の加入者を増やすとともに、学校行事等において、生徒が主体的に活動できる場を設定する。	①過去の相談・支援事例を整理・共有することにより、職員の相談・支援スキルを高める。 ②年次集会等の計画的開催を通じて、適時的な規範意識醸成に努める。服装・身だしなみチェックの記録を明確化するとともに、「指導強化週間」を設ける。 ③学校行事や委員会等において、生徒会役員を中心に生徒自らが企画運営をする機会を設定する。 ・部活動が学校行事で活躍できる機会を増やす。	①教職員研修会等で、事例共有ができたか。 あらたな相談・支援事例に活用できたか。 ②年次集会等を計画的・適時的に開催できたか。 服装・身だしなみチェックの記録を明確化し、継続的指導に生かせたか。 「指導強化週間」を有効に実施できたか。 ③生徒が企画運営する機会を多く設定することができたか。 ・部活動加入率が30%以上になったか。	①現在進行形の重い支援事例について記録整理中。今年度内の共有は見送ったが、次年度6月以降事例共有して職員研修とする。この流れを毎年度定例化することを検討中。 ②昨年度に比し問題行動が多発しており、年次集会等を有効に設定できたとは言いがたく反省が残る。「服装指導強化週間」は設定したが、成果は充分ではない。 ③学校行事において、生徒会執行部や委員会が中心となって運営に関わり、生徒が主体的に活動する場を設けることができた。 ・部活動加入率は28%であった。全国大会に出場した卓球部女子シングルス、バドミントン部女子団体、剣道部女子個人・団体、バスケットボール部女子の功績を称え「かながわ部活ドリーム大賞」へ推薦した。	①支援事例の多さは本校の大変さであると同時に、他校では得がたい「経験」機会の豊かさを意味する。支援事例を学校財産として共有し、支援スキルアップを図る道筋を構築していきたい。 ②問題行動の態様に準じて、巡回・立ち番体制を見直して、予防的生徒指導体制構築に取り組む。「服装指導」についてはチェック体制を整備しつつ、指導重点項目の絞り込みを図る。 ③生徒会執行部が中心になり、自主的に動けるような場をもっと多く作り、生徒が活躍できる場を増やしたい。 ・1年次入学当初の加入率が高かった中で、継続して活動していける環境を整えていく必要がある。一人ひとりの自己肯定感が育まれるように功績を称えることができる機会を積極的に利用したい。	○様々な事例に対する対応を共有することで今後の指導に活かしていく方向性は重要である。 ○問題行動に対して生徒と一緒に考えていくよう指導されていた。個々の生徒に合ったアプローチが今後も求められる。 ○古着回収活動や小学校の出張授業等のボランティア活動をとおして生徒自身の自己肯定感を高めさせることができていた。 ・今年度は、年度当初の部活動入部者が多かったとのことなので、引き続き、部活動の活性化に努めていただきたい。	○支援事例について、全体で共有する研修会を設定することはできなかったが、各年次で支援を必要とする事例については共通理解を図ってチームで対応することができた。 ○年次集会をとおしてルールとマナーを守る意識の醸成を図る指導を継続的に実施できたが、さらに問題行動を予防する観点からの指導が必要である。 ○継続して例年、取り組んでいるボランティア活動を実施することができたが、ボランティアの参加率が徐々に下がる傾向にあった。 ・部活動の加入率は28%であったが、継続して部活動に取り組んでいる生徒は、文化部・運動部ともに日頃の活動の成果を発揮することができた。	○多様化する支援事例について情報共有を図る職員研修の定例化を検討する。 ○巡回警備体制や服装指導に係る指導方針について、教員間の共通理解を得ながら見直しを図り、問題行動予防と安心・安全な学校づくりにつなげていく。 ○より多くの生徒が、ボランティア活動に取り組めるよう、生徒にはたらきかけていく。 ・部活動については、新入生歓迎会以外の場面でも各部活動の魅力を生徒に伝えるなど加入率を高める工夫が必要である。
3	進路指導・支援	○生徒の社会生活実践力を育成し、社会とつながり、主体的に進路設計ができる力を身につけさせる。	①自己および他者への理解を深めることとおして、生徒が自己の役割や責任を認識し、社会とつながる力を身につけるための支援を行う。	①「総合的な探究の時間」を中心とした学習活動や外部機関等を活用した様々な体験活動をとおして、社会とのつながりや働くことの意味等に対する理解を深めさせる。	①「総合的な探究の時間」を中心としたキャリア形成に係るプログラムを、各年次で計画的に実施することができたか。	①各年次とも「総合的な探究の時間」を中心としたキャリア教育プログラムを計画的に実施し、社会や職業、働くことの意味などに対する理解を深めさせた。	①勤労観、労働観をより効果的に育成するため、「総合的な探究の時間」と他教科との連携を強化する。	①各年次に応じて、段階的に生徒の進路実現につながるよう進路ガイダンスや「総合的な探究の時間」での取り組みが効果的に展開できたのではないかと。	①進路実現に向けて自分の卒業後の方向性について考えさせることができたが、さらに生活設計の視点で進路を考えさせていく必要がある。	①高校卒業後の進路決定がゴールではなくスタートである意識を持たせていく実践に努めていく。 ②自己理解を深めた

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月23日実施)	総合評価(3月31日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
			②生徒が主体的に将来を考え、個々の関心や能力、適性に合った進路を実現するための支援を行う。	②生徒一人ひとりの希望進路を実現させるために個別面談や進路ガイダンス等とおして適切な情報を提供する。	②生徒のニーズに合った情報提供を、適切な時期に行うことができたか。	②生徒一人ひとりのニーズに応じた情報を適切な時期に提供し、進路実現のための支援を行った。	②進路適性検査のあり方を見直し、生徒がより主体的に進路設計をできるようにする。	②定期的な面談に加えて、生徒の状況に応じたきめ細かな面談や情報提供が生徒がより主体的に自分の進路実現を図ろうとする意識につながっているのではないか。	②キャリアプログラムの実践をとおりて、自己理解を深め、自分に合った進路を考えさせることができた。さらに進路適性検査の活用が進路の方向性を考える上での一助となるよう効果的な活用の検討が必要である。	り自分の適性を意識して生徒が自分の将来を主体的に考えられるよう進路適性検査を効果的に活用する。
4	地域等との協働	○地域や外部の諸機関等との連携体制を整備・拡充し、地域と協働した教育活動・学校運営を行う。	○地域との交流や外部機関の活用を通じて、生徒の自己肯定感を高め社会とつながろうとする意欲を高める教育活動の充実を図る。	○特別活動・授業・生徒会活動等において地域の方との交流の機会を増やす。 ・生徒のニーズに応じて外部機関について情報提供を行い、生徒が有効活用できるよう促す。	○生徒が地域のイベントに参加したり、地域の方と交流したりする場を増やすことができたか。 ・生徒が外部機関とつながる機会を増やすことができたか。	・港南区スポーツ協会が主催する「第17回スポーツ・イベント・フェスティバル」に運動部及び生徒会の生徒がボランティアとして参加。受付や各競技会場の運営等、来場者がフェスティバルを楽しめるように活動した。 ・本校の教育活動を地域等に紹介するために教育広報番組を活用。港南台第二小学校の協力を得て「SNSの上手な使い方を考えよう」をテーマにした生徒会ボランティアによる出張授業を紹介した。 ・外国につながるのある生徒を対象にあーすぷらざの見学を実施した。	・地域の方々との関わりや地域に貢献した活動ができるなど、普段の学校生活では得られない貴重な経験をすることができたため、より多くの生徒の参加を促したい。 ・地域連携等による教育活動を地域等の方々へ紹介できる機会を積極的に利用したい。 ・外国につながるのある生徒の増加に伴い、より多くの生徒が外部機関を積極的に活用するよう支援を進めていく。	・地域のイベントで、生徒たちが活躍することができていた。 ・教育広報番組で生徒の活動を紹介することが、生徒の励みになっていた。今後も、生徒の活動を広報し、地域の方にご理解・ご協力を得られるよう努めていきたい。 ・外国につながるのある生徒に対して、さらに活用できる外部機関を模索していかるとよいのではないか。	・生徒会や運動部の生徒は地域のイベントに参加することができたが、それ以外の生徒も積極的に参加できるよう促していく。 ・外国につながるのある生徒には、昼休みの「多文化サポート」の際にあーすぷらざの見学を勧め、実施することができたが、その他のイベントについては、classroomでの案内にとどまっているため積極的な参加を促すには至らなかった。	・地域のイベントでの活躍を積み重ねることが生徒の自信につながるよう今後も生徒の参加を促していく。 ・外国につながるのある生徒に、教育フェア等のイベントに参加することの意義を伝え、参加することにより有益な情報が得られるようはたらきかけていく。
5	学校管理 学校運営	①安全、安心な教育環境を維持・推進するとともに、本校の教育活動に適した学習環境の整備を進める。 ②保護者や地域と連携した防災教育活動を進め、生徒の防災に対する意識を涵養する。 ③事故不祥事防止を推進し、学校に対する信頼を深める。	①生徒の安全を確保し、よりよい学習環境を整える。 ②生徒及び職員の防災意識をさらに高め、保護者や地域との連携を図る。 ③事故・不祥事を生まない環境づくりに努める。	①体育館天井工事を安全に進め、安全な生徒の活動場所を確保する。 ・施設の経年劣化を意識した点検を行うとともに日々の報告をもとに改修箇所等を早期に把握する。 ②保護者や地域の方も参加できる防災研修・訓練を企画・実施する。 ③防止会議等の実施による事故・不祥事防止の意識醸成に努める。 ・相談しやすい環境づくりに努める。	①生徒の活動場所を確保し、安全に体育館天井改修工事を終えることができたか。 ・冷房設備が整っている多目的教室などを活用し、熱中症等に配慮した学習環境を確保できたか。 ・破損箇所の素早い改修を行うことができたか。 ②保護者や地域の方も参加できる防災研修・訓練を行うことができたか。 ③不祥事防止会議や日々の活動での機会をとらえた注意喚起ができたか。 ・相談、指導における組織的な対応ができたか。	①生徒の活動場所を確保し、安全に体育館天井改修工事を終えることができた。 ・冷房設備が整っている多目的教室などを活用し、熱中症等に配慮した学習環境を確保できた。 ・技能員の方と協力し、破損箇所の改修ができた。 ②保護者の方も参加できる防災研修・訓練を行うことができた。 ③事故・不祥事防止研修を毎月開催し、職員の危機管理意識の醸成に努めた。また今年度は、全国的に課題となっている性犯罪・性暴力等による懲戒処分事案等が複数発生したため、不祥事防止映像資料等を視聴することとなり、その視聴を踏まえてグループ協議を実施した。	①校舎内の経年劣化している箇所が増えてきているので早期発見できる体制を整備していきたい。また、体育館の屋根補修と太陽光パネル設置工事が予定されているので生徒の安全を確保できるようにしていきたい。 ②より実践的な防災研修・訓練を企画し、生徒・保護者及び地域の方々と連携した活動ができるようにしていきたい。 ③引き続き積極的な働きかけと不祥事を生まない環境づくりに努める。	①体育館天井改修工事中は、近隣の学校の体育館を借りて部活動の活動ができるよう努めていた。 ・猛暑の中、冷房設備を有効に活用し、生徒の健康に配慮した学習環境を整備することができていた。 ・校内の状態をこまめに点検し、安全な環境整備に努めることができていた。 ②防災については、今後も研修・訓練の継続的な取り組みによって防災意識を高めていくことが大切である。 ③不祥事防止研修について、グループ協議を実施することで、より意識を高めることができたのではないか。	①安全・安心な環境づくりのために、補修を進めることができた。 ・生徒の健康面に配慮した環境整備を速やかに進めることができた。 ②生徒、保護者、教職員それぞれが防災に対する意識を高めることができた。 ③グループ協議による事故・不祥事防止研修は職員の意識を高める上で効果的であった。	①太陽光パネル設置工事に伴い、生徒が安全に教育活動ができるようにする。 ・引き続き猛暑を想定した熱中症予防対策を行う。 ②引き続き、地域の方と連携した防災研修も検討する。 ③今後も、毎月の事故・不祥事防止会議を継続するとともに、職員同士で話し合う研修を設定する。